○扇子ぎきやう

（朝比奈博士寫眞）
信州白馬山下ニテ栽培ノ「扇子ぎきやう」
A monstrosity of *Platycodon glaucum* NAKAI known by the Japanese name of Sensu kikyô in Kôeki-tikin-syô (1719) with illustration.

昨年八月上旬信州白馬山下四ツ谷ノ白馬館ニ泊シタ折、裏庭ニ桔梗ノ白花品デ花莖ガ癒合シテ帶化狀ニナリ、從ツテ花モ癒合シテ妖異ノ狀ヲ呈シタ見事ナモノヲ見タノデ、朝比奈先生ヲ煩ハシテ撮影シテ頂イテオイタ所、金澤ノ塚本赳夫博士ガ本年ニナツテ同様ナモノノ存在ヲ報ジテ來タノデ、其ノ寫眞ヲ茲ニ公表スル事ニシタ。勿論一個ノ妖異植物ニ過ギナイガ、昔カラノ存在ト見エ廣益地錦抄(享保四年 1719) 卷之二ニ「扇子ぎきやう」ノ名稱ガ與ヘラレテ居ル、恐ラク側面カラ之ヲ見ルト扇子狀ニ見エルカラデアラウ。尤モ地錦抄ノハ紫花ノモノヲあさぎ扇子ぎきやうトシタノデアルカラ之ハ白花故タヾ扇子ぎきやうトシタラヨカラウ。學名ハ規約第六十五條ノ精神ニ基キ特ニツケナイノガヨイト思フ。

（久内清孝）

○からふといはでんだ北海道ニ產ス

とがくしでんだトからふといはでんだトガ同種デアル事ハ田川基二氏ニヨリ植物分類地理5卷253頁デ明カニサレ、本植物(*Woodsia glabella* R. BROWN) ハ我國デハ樺太・本州中部・北朝鮮ノ高山ニ分布シテキル事ガ分ツタ。私ハ昭和八年七月廿二日、北海道石狩國夕張岳頂上近クノ鐘岩デ本種ヲ採集シタガ、未ダ北海道ニ於ケル記錄ガ發表サレテキナイノデココニ追加シテオク。

（原　寛）

○おほふたばむぐらノコト

一見ふたばむじらニ似テ强壯ナ一草ガアツテ、大阪ノ濱寺ヤ東京ノ村山等ニ野生化シタ歸化品ガアル。コレハ濱寺產デ牧野先生ガおほふたばむじら又ハたちふたばむじらト命名サレタト聞イタ。北米中部ニアリフレタ雜草デ中々變化ニ富ムガ、日本ニ來テ居ル連中ハ大體高サ 30 cm ヲ超エ、分枝シ、鈍四稜ノ莖上ニハ密ニ短鬚毛ヲ生ジ、葉ハ長披針形デ對生、長サ 3 cm 許、先端ハ刺尖スル。二葉間ニハ長サ 4-8 mm ノ刺毛狀ノ托葉ヲ各側 5-7 個ヅツ立テル。葉腋ニ埋レテ小花ヲ開イタ後ニハ托葉ヨリ短イ褐色ノ蒴ヲ生ジ、倒卵形デ短毛ヲ布キ、更ニ疎鬚毛ヲ混ズル。最近 FERNALD, GRISCOM ノ兩氏ガ北米產ノモノヲ四ツ許リノ變種ニ區分シタノヲ見ルト *Diodia teres* WALT. var. *setifer* FERNALD et GRISCOM in Rhodora **39**: 307, pl. 469, f. 5-6 (1937) トイフニ一番近イ。コレハ var. *typica* ニ比ベ莖上ニ毛多ク、又葉先ガ刺トナル特徵ガアル。日本ニ入ツタノハ近年デ、濱寺デハ宇井縫藏氏ガ昭和八年ニ、村山デハ久內清孝氏其他ノ人ガ昭和二年ニ採ラレタ標本ヲ見タ。

（前川文夫）